

日常点検について

日常点検は、走行距離や運行時の状態などから判断し、適切な時期に実施することになっておりますので、長距離ドライブの前や給油時、洗車時を目安に行ってください。

日常点検は、自動車の構造と装置について基礎的な知識をお持ちの方であれば、ご自身で行っていただけます。

なお、点検の結果、異状が認められたときは、ただちにレクサス販売店で点検・整備をお受けください。

警告、注意、知識について



警告

ここに記載されていることを守れないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。



注意

ここに記載されていることを守れないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。



知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

安全のためにお読みください

点検の準備・場所

- 地面が水平で、周囲の安全が確保できる場所をお選びください。
- 車庫内など換気が悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。(ハイブリッド車は、パワースイッチをOFFにしてください。) 排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。(電気自動車を除く)
- 傾斜した場所では行わないでください。お車が動きケガをするおそれがあります。また、オイル等の量を点検する場合は、正しい測定ができません。
- パーキングブレーキをかけ、必ず輪止めをしてください。パーキングブレーキが十分かけられていなかったり、輪止めをしないとお車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボデーの端部などで手にケガをされないように軍手などをご利用ください。

エンジンルーム・モータールーム内の点検

- エンジンをかけたままの点検はおやめください。ベルトやファン等の回転部分に触れると、手などが巻き込まれてケガをしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、プラグコードなどの電気系統に触れると感電するおそれがあります。
- ハイブリッド車は、必ずパワースイッチをOFFにしてください。エンジンが自動的に動きだすことがあり危険です。
- エンジンスタートストップスイッチがイグニッションONモード(エンジンスイッチがON)または、パワースイッチがONモードの状態での点検もおやめください。冷却ファンが一時停止していても、自動的に動き出し、ケガをするおそれがあります。
- エンジン停止(ハイブリッド車または電気自動車は、パワースイッチをOFFにした)直後は排気管(電気自動車を除く)、ラジエーターなどの高温部にはお触れにならないでください。やけどをするおそれがあります。
- 紙や布など燃えやすいものを置き忘れると、出火するおそれがあります。
- ホース配管、配線などをおはずしにならないでください。故障の原因になるおそれがあります。

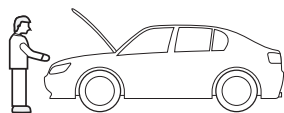
日常点検のしかた

「点検順序と点検項目」にしたがって日常点検を実施し、日常点検記録に結果を記入します。

点検順序と点検項目

* 車種によって搭載位置が異なります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

■ エンジンルーム・モータールーム



1. ブレーキの液量
2. エンジンオイルの量
3. 冷却水の量
4. バッテリーの液量*
5. ウインドウツッシャーの液量*

■ 車のまわり



6. タイヤの空気圧
7. タイヤの溝の深さ
8. タイヤの亀裂、損傷
9. タイヤの異状摩耗
10. 灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷

■ 運転席に座って



11. パーキングブレーキレバーの引きしろ（ペダルの踏みしろ）
12. 原動機のかかり具合、異音
13. ブレーキペダルの踏みしろ
14. ウインドウツッシャーの噴射状態
15. ワイパーの払拭状態
16. 灯火装置、方向指示器の作用

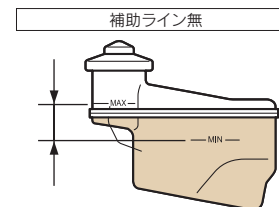
■ 走行して



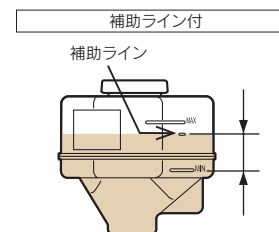
17. ブレーキの効き具合
18. 低速及び加速の状態
19. 運行において異状が認められた箇所

エンジンルーム・モータールーム

1. ブレーキの液量



液量がリザーバータンクのMAX(上限)とMIN(下限)の間にあるかを点検します。



補助ライン付車は、補助ライン(上限)とMIN(下限)の間にあるかを点検します。

⚠ 警告

- 液の減少が著しいときや、ブレーキ液面がMIN(下限)より低いときは、液漏れなどが考えられます。ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。
- ブレーキ液は粗悪品や異なる銘柄・性能のものをまぜるとブレーキの効き具合やブレーキ系統に悪影響を与え、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキ液:

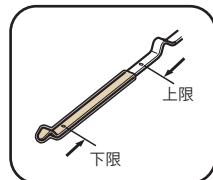
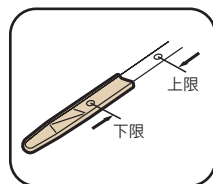
次の銘柄のブレーキ液をご使用ください。

- ・ ブレーキフルード 2500H-A(DOT3)
- ・ ブレーキフルード BF-5(DOT5.1)

車種によって適したブレーキ液が異なることがあります。

詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

2. エンジンオイルの量 (電気自動車を除く)



エンジンオイルの点検は、エンジン暖機後エンジンを停止 (ハイブリッド車は、パワースイッチをOFFに) してから5分以上たった状態で行なってください。オイルレベルゲージを抜いてきれいに拭き、ゲージが止まるまで一杯差し込んで再び抜いたとき、オイル量がレベルゲージの上限と下限の間にあるかを点検します。

オイル量が下限に近い場合はエンジンオイル注入口から指定のオイルを上限まで補給します。補給後はキャップを確実に取り付けます。

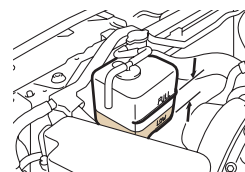
警告

オイルがこぼれた場合は、完全にふきとってください。エンジン (ハイブリッド車は、ハイブリッドシステム) が熱いときは発火するおそれがあります。

注意

- 上限以上にオイルを補給しないでください。
- 注入口からゴミが入らないようにしてください。

3. 冷却水の量 (ハイブリッド車はインバーターを含む、電気自動車はインバーターのみ)



エンジンまたは、システム^{※1}が十分冷えてから、リザーバータンクの冷却水量が、FULLまたはF (上限) とLOWまたはL (下限) の間にあるかを点検します。

ゲージ式はレベルゲージのF (上限) とL (下限) の間にあるかを点検します。

不足している場合は、弊社純正スーパーロングライフクーラントを水でうすめ、濃度30%^{※2} (寒冷地50%) にしてリザーバータンクのFULLまで補給します。

※1 ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

※2 RX450h、RX450hLは濃度50%

警告

ラジエーターやリザーバータンクが熱いときは、キャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出してやけどをするおそれがあり危険です。

注意

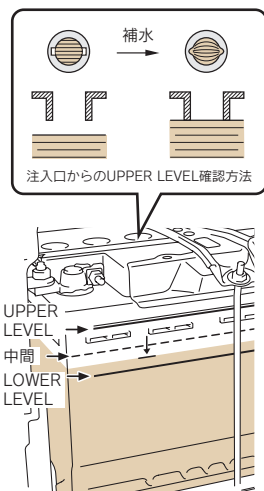
- FULL以上に冷却水を補給しないでください。
- エンジンルーム・モータールーム内に冷却水をこぼさないでください。部品や塗装が損傷したり、エンジンまたは、システム[※]が熱いときは発火するおそれがあります。
- 冷却水の濃度が薄い場合、寒冷時に凍結し、ラジエーターやエンジンまたは、システム[※]が損傷するおそれがあります。
- 冷却水の量がLOW以下のときは、冷却システムの漏れが考えられます。レクサス販売店で点検をお受けください。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

知識

冷却水の交換については、レクサス販売店にご相談ください。

4. バッテリーの液量 (完全密閉式バッテリーは点検不要)



液面が、各液槽ともUPPER LEVEL (上限) と LOWER LEVEL (下限) の間にあるかを点検します。

点検しにくい場合は、ライトなどで側面を照らし点検します。

または、キャップを外し注入口から点検します。

【エンジンルーム・モータールーム搭載車】

バッテリー液面がUPPER LEVEL (上限) と LOWER LEVEL (下限) の中間以下のときは、UPPER LEVEL (上限) まで補充液または蒸留水を補充してください。

【室内搭載車】

バッテリー液面がUPPER LEVEL (上限) と LOWER LEVEL (下限) の中間以下のときは、バッテリー本体の異状または寿命等の性能低下が考えられます。お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

- インジケーター付きバッテリーは、インジケーターに表示される色によって、バッテリーの状態をご確認いただけます。詳しくはバッテリー上面についているラベルをご覧ください。

警告

- ショートさせたり、タバコの火などの火気を近づけたりしないでください。バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。
- 乾いた布でふかないでください。静電気が発生し爆発するおそれがあり危険です。
- 液面が不足したまま使用・充電すると、バッテリーの寿命が短くなったり、発熱や爆発のおそれがあり危険です。
- バッテリー液を抜き取らないでください。バッテリー液は有害で腐食性のある硫酸を含んでいるため、取り扱いを誤ると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 万一、バッテリー液が目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、お早めに医師の治療をお受けください。

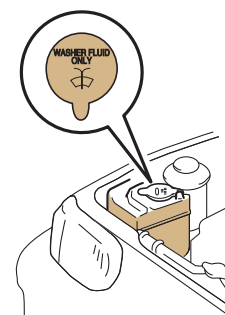
注意

- UPPER LEVEL (上限) 以上補給しないでください。走行中に液が漏れて塗装面を傷めたり、過充電したときに液が噴き出し、部品が腐食したり損傷するおそれがあります。万一こぼしたときは、すぐに水できれいに洗い流してください。
- バッテリーのキャップを開けたままにしないでください。バッテリー液の中に異物が入り、バッテリーの寿命が短くなるおそれがあります。

知識

バッテリー端子の清掃やバッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

5. ウィンドウォッシャーの液量



タンク側面より点検、またはタンク内の表示、フロートの位置、レベルゲージを見て、液量を点検します。

液量が少ない場合は、ウォッシャー液を補充します。

警告

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているとき (システム※が熱いときや READYインジケーターが点灯中) は、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンまたは、システム※などにかかるると出火するおそれがあり危険です。

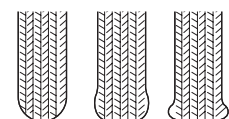
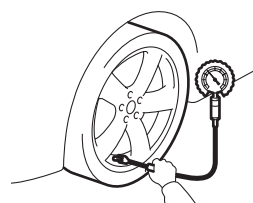
※ ハイブリッド車: ハイブリッドシステム、電気自動車: EVシステム

注意

ウォッシャー液の代わりに、石鹸水などをお入れにならないでください。塗装のシミになるおそれがあります。

車のまわり

6. タイヤの空気圧



過大 適正 不足

タイヤが冷えているときの、タイヤのたわみ状態（つぶれ具合）により、空気圧が適正かどうかを点検します。

扁平タイヤ等空気圧不足が分かりにくいものにつきましては、空気圧ゲージを使用して点検します。

タイヤ空気圧警報システム装着車は、マルチインフォメーションディスプレイにて空気圧を確認することができます。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

空気圧が適正でない場合は、指定空気圧に調整します。指定空気圧は、運転席ドアを開けたボディ側に表示してあります。

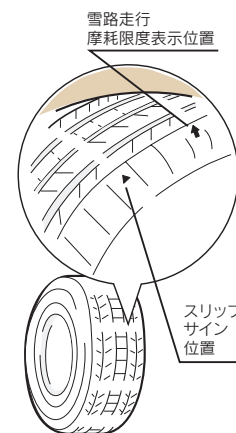
必ずスペアタイヤを含めて点検してください。

警告

空気圧が極端に少ない状態のまま走行しないでください。車両の安定性を損なうばかりでなく、高速走行時にスタンディングウェーブ現象※によりタイヤがバースト（破裂）して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

※ タイヤが波うつ現象。

7. タイヤの溝の深さ



タイヤ接地面に表示されている、スリップサイン（摩耗限度表示）が現れていないかを点検します。

警告

- 摩耗限度をこえたタイヤはご使用にならないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象※により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）して、思わぬ事故につながるおそれがあります。すみやかに正常なタイヤと交換してください。

※ 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。

- オールシーズンおよびスタッドレスタイヤは雪路走行摩耗限度表示が現れたら、（新品時溝深さの1/2に現れます）積雪路、凍結路の走行は避けてください。スリップ事故につながるおそれがあります。

8. タイヤの亀裂、損傷

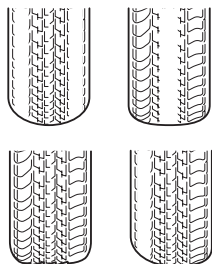


タイヤの側面や接地面に著しい傷や亀裂がないかを点検します。また、釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

警告

異状があるタイヤは、走行時にハンドルが取られたり、異状な振動を感じる場合があります。また、バースト(破裂)など修理できないような損傷をタイヤに与え、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異状な振動を感じた場合は、すみやかにレクサス販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。

9. タイヤの異状摩耗

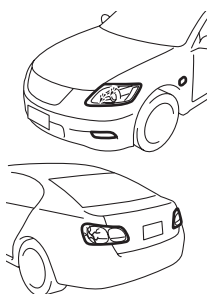


タイヤ接地面に極端な片べりなどの偏摩耗がないかを点検します。

注意

極端にすり減っていたり、摩耗具合が他のタイヤと極端に異なる場合は、空気圧の過不足、ホイールアライメントが正しくないことなどが考えられます。お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

10. 灯火装置、方向指示器の汚れ、損傷



各ランプのレンズ、反射器に、汚れや変色、破損、ヒビ割れがないかを点検します。

破損やヒビ割れ、取り付けの緩みがある場合は、レクサス販売店で修理または交換を行ってください。

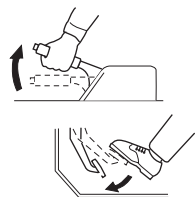
知識

ヘッドランプ・制動灯などのレンズは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、レクサス販売店で点検をお受けください。

運転席に座って

11. パーキングブレーキレバーの引きしろ(ペダルの踏みしろ)

電動パーキングブレーキ装着車を除く



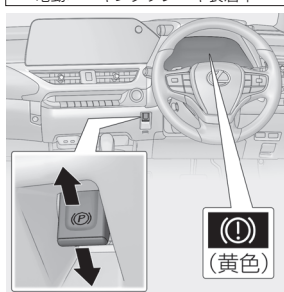
操作時の“カチカチ音”の回数が規定の範囲で止まるか点検します。

レバータイプ:
レバーが止まるまでゆっくり引きます。

ペダルタイプ:
ペダルが止まるまでゆっくり踏みます。

カチカチ音の規定数は取扱説明書のメンテナンスデータをご参照ください。

電動パーキングブレーキ装着車



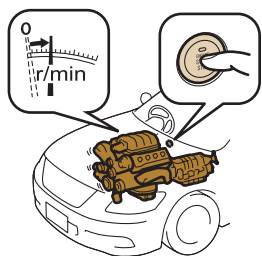
エンジンまたは、システム^{*}を始動し、パーキングブレーキスイッチを1秒以上押したときおよび1秒以上引いたときにブレーキ警告灯(黄色)が点灯していないことを確認します。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

警告灯が表示した場合は異状が考えられます。
ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

12. 原動機のかかり具合・異音



エンジン始動またはシステム^{*}始動時、かかり具合は良いか、異音がないかを点検します。
また、アイドリング時や少し回転を上げた状態で、異音がないかを点検します。(ハイブリッド車および電気自動車を除く)

電気自動車は、微低速で走行した時に異音がないかを点検します。

微低速で走行した時に異音がある場合、その状態が続くとEVシステムを損傷させるおそれがあります。早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

注意

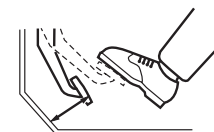
エンジンまたは、システム^{*}始動時に異音がある場合は、エンジンまたは、システム^{*}を損傷させるおそれがあります。お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

知識

ハイブリッド車は、車両の状態により停車中はエンジンが停止する場合があります。

13. ブレーキペダルの踏みしろ



エンジンまたは、システム^{*}を始動しブレーキペダルをいっぱい踏み込み、床板とのすき間を点検します。また、ペダルの感触に次の様な異状がないかを点検します。

- ペダルを踏み続けたときに、ペダルがさらに入り込む
- ペダルをいっぱい踏み込んだときの踏みごたえがふわふわ感じる

床板とのすき間は、取扱説明書のメンテナンスデータをご参照ください。



電子制御ブレーキシステム装着車は以下の方法でも点検できます。

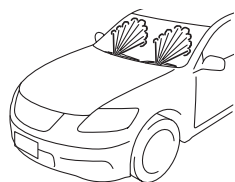
ブレーキ警告灯が点灯していないことを確認します。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

警告

ブレーキペダルの踏みしろやペダルの感触に異状がある場合は、ブレーキ液の漏れ、空気の混入などにより、ブレーキの効きが悪くなったり、片方だけが効いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。お客様ご自身で判断なさらず、必ずレクサス販売店で点検をお受けください。

14. ウインドウォッシャーの噴射状態



ウォッシャーを作動させて、ウォッシャー液が勢いよく噴射するか、また、ワイパーの払拭範囲のほぼ中央に当たるかを点検します。

噴射状態が悪い場合は、レクサス販売店にご相談ください。

15. ワイパーの払拭状態



エンジンまたは、システム^{*}を始動して点検します。

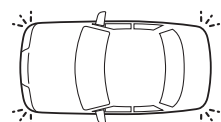
ウインドウォッシャーを作動させ、ウインドシールドガラスをぬらしてから点検します。

ワイパーを作動させ、「間欠作動」「低速作動」「高速作動」「一時作動」の各作動が良いか、また、拭き取り状態が良いかを点検します。

拭き取り状態が悪い場合は、ウインドシールドガラスの清掃や、ワイパーゴムの交換が必要になります。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

16. 灯火装置、方向指示器の作用



エンジンまたは、システム^{*}を始動し、正常に点灯または点滅するかを点検します。

点検は壁やミラーを利用するか、他の人に見てもらって確認します。

ヘッドランプ: 点灯状態にし、点灯するか明るさが不足していないかを点検します。

方向指示灯: 方向指示レバーを左右に作動させ、全ての指示灯が点滅するかを点検します。

制動灯: ブレーキペダルを軽く踏んで、制動灯が点灯するかを点検します。

後退灯:

【下記以外の全車】

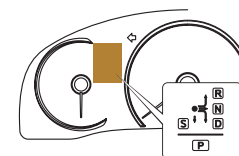
- エンジンスタートストップスイッチをイグニッションONモード(エンジンスイッチをON)の位置にし、エンジン停止状態でブレーキを踏みながら確認します。

【ハイブリッド車】

- パワースwitchをONモードの位置にし、ハイブリッドシステム停止 (READYインジケータが点灯していない) 状態でブレーキを踏みながら確認します。

【ハイブリッド車(エレクトロシフトマチック付車)、電気自動車】

- システム^{*}を作動させた (READYインジケータが点灯している) 状態でブレーキを踏みながら確認します。



エレクトロシフトマチック付車

他のランプ: 車幅灯、尾灯、非常点滅灯を作動させ、点灯または点滅するかを点検します。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

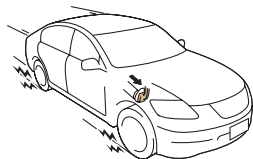
警告

パーキングブレーキをかけ、必ず輪止めをしてください。
パーキングブレーキが十分にかけられていなかったり、輪止めをしないとお車が動き思わぬ事故につながるおそれがあります。

走行して

周囲の交通状況に十分注意し、安全な場所で点検してください。

17. ブレーキの効き具合



通常走行時にブレーキをかけたとき、効きが十分か、片効きしないかを点検します。

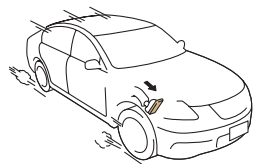
効き具合が悪い場合は、レクサス販売店で点検をお受けください。



警告

走行中、継続的にブレーキ付近から警告音(“キーキー”音)が発生したときは、ブレーキパッドの使用限度です。ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。警告音が発生したまま走行し続けると、ブレーキパッドがなくなり、ブレーキ部品を損傷させたり、効きが悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあります。

18. 低速及び加速の状態



通常走行時で低速で走行しているときや停車したとき、エンジン回転にむらがあったり(電気自動車を除く)、止まったりしないかを点検します。

また、アクセルペダルを踏み込んだとき、なめらかに加速するかを点検します。



警告

低速および加速の状態が著しく悪い場合に、そのままご使用いただくとエンジンまたは、システム[※]の損傷や、運転感覚の狂い、あるいはブレーキの効きが悪化するなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

お早めにレクサス販売店で点検をお受けください。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム



知識

ハイブリッド車は、停車時、低速走行中にエンジンが停止する場合があります。

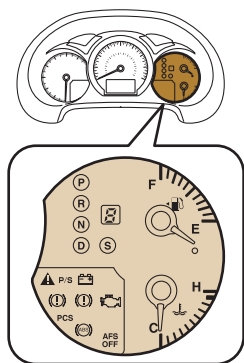
19. 運行において異状が認められた箇所

前日までの使用時に異状があった箇所について、運行に支障がないかを点検します。

異状がある場合は、レクサス販売店で点検をお受けください。

簡単な点検整備

1. ウォーニングランプ(警告灯)の点灯



パーキングブレーキをかけます。

エンジンスタートストップスイッチをイグニッションONモード(エンジンスイッチをON)または、パワースwitchをONモードの状態にし、メーター内のウォーニングランプが全部点灯することを点検します。

エンジンまたは、システム※を始動しシートベルトを着用して、パーキングブレーキ表示灯以外のランプが消灯するかを点検します。

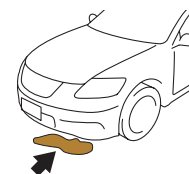
さらに、フットブレーキを一杯踏み、パーキングブレーキを解除したとき、パーキングブレーキ表示灯が消灯するか点検します。

※ ハイブリッド車:ハイブリッドシステム、電気自動車:EVシステム

警告

- 点灯しないランプは、バルブ切れの可能性があります。
- 警告灯が消灯しない場合は異状が考えられます。
ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。

2. エンジンルーム・モータールーム下の路面点検



駐車したあとに、エンジンルーム・モータールーム下の路面に油や、冷却水が漏れていないか点検します。

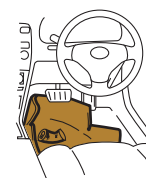
警告

油や、冷却水が漏れている場合は、ただちにレクサス販売店で点検をお受けください。

知識

油や、冷却水は、色が付いていたり、粘りや臭いがあります。
透明でサラサラしていればエアコンの除湿水で異状ではありません。

3. フロアの点検



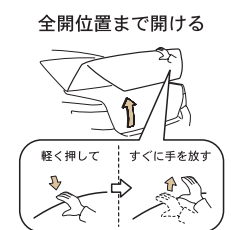
フロアに空き缶等の異物がないか確認します。また、フロアマットやカーペットがずれていないか確認します。

異物があれば除去し、マット類のずれをお直してください。

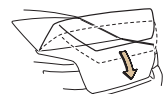
警告

異物があったり、マット類がずれていたりすると、アクセルやブレーキなどペダル類の操作のさまたげになり思わぬ事故につながるおそれがあります。

4. ダンパーステア機能の点検 (ダンパーステア装着車)



下降し続けられないことを確認



手を放しても下降し続ける場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

下記方法により、バックドアおよびトランク、ボンネットのダンパーステアの保持力を点検します。

- ① バックドアおよびトランク、ボンネットを全開位置まで開けます。
- ② 閉じる方向に軽く手で押して、すぐに手を放します。

⚠ 注意

手を放してもさらに下降し続ける場合、ダンパーステアの保持力が低下している可能性があります。レクサス販売店で点検をお受けください。

ダンパーステアの保持力が低下すると、バックドアおよびトランク、ボンネットが急に落ち、けがをするおそれがあります。

5. エアクリーナエレメントの清掃・交換 (電気自動車を除く)

□ 知識

エアクリーナエレメントの清掃・交換については、レクサス販売店にご相談ください。